



三島学園百周年記念棟

三島学園報

VOL.3
2004.12

- 巻頭言「虹の丘30年」
- 短期大学部改編 生活学専攻・子ども生活専攻新設
- 高校全コース男女共学に
- 小林カツ代先生講演会「食は美の世界」



学校法人 三島学園

虹の丘30年

学校法人 三島学園 理事長
池上 雄作

10月の大学祭の時も書いたことだが今年は記録づくめの年である。真夏日の連続記録が各所で作られたし、台風が10個も本土に上陸した。イチローが素晴らしい記録を打ち立て、甲子園の優勝旗が北海道に渡った。そして震度7の地震が新潟中越地方を襲い、山中の熊がゲリラを強め始めた。よく晴れると言われる文化の日は雨の一日であった。‘あの年は’と強く記憶に残るそんな年かもしれない。そして暮れも迫ってきたが、この12月で本学園は清水小路からここの虹の丘に移転して満30周年を迎えた。自然美を満喫できる学園のこの台地の有難さを確かめ合いたいものである。

記録によると移転には10年余りの歳月を要した。昭和39年にここ宮城郡泉町上谷刈字丸田山と呼ばれていた土地の貸付を申請し、41年に1号館を新築し、短大体育科を移転したのが最初で、2、3号館が順次できて家政学科と生活美術学科が移ったが、当時は市の中心部と郊外の二つのキャンパスを往復するのが大変だったという。43年に寄宿舎が建ち、44年に丸田山ますみ幼稚園が発足し、48年に校地を追加取得して完成を目指し、49年12月2日が移転完了の日となっている。大正2年から61年間親生まれ、一時は3,000人を越す学生・生徒が通っていた清水小路の旧地にはいま市立病院が建っている。

昭和30年頃の地図を開いてみると、この地は全くの灌木地で、堤町から北の陸羽街道沿いは住居が疎らで、西側の台地には丸田沢堤、荒巻温泉や中山不動だけが目立ち、その頃山道を散策したことが思い出される。街の中の校地が手狭になったために郊外に移る大学が現れ始めた頃、先鞭をきった移転であり、辺地への移転に異論が多かったとも言われるが、時宜を得たものであった。当時は予想もつかなかっただろうが、今はすっかり市の一角に組み込まれ、地下鉄も近くにやってきて他学に羨ましがられるキャンパスとなった。整備が進む一方で古い建物の老朽化も見えてきているが、この丘には学園に相応しい底堅さが培われてきた。

丁度移転の頃から教育界は学歴志向と進学率上昇によって拡大の一途を辿り、学園としても実績を重ね、近年は名称面でも東北生活文化大学を中心としたまとまりを標榜する改革を進めてきたが、時勢に対応して常に改革に努めなければならない時代に入っている。少子化の進む中で、高校では生徒の志向を重視した教育が求められ、大学・短大は教育研究の指針を鮮明に掲げた機能別分化が必要であるとの提言がなされている。本学園としても、この丘に立つ教育研究の支柱を折にふれて見直し、さらに堅固なものとするのが求められている。

公開講座

みやぎ県民大学「大学開放講座」

「今から始めるパソコン入門 ～パソコンを活用した基礎造型～」

7月31日(土)、8月7日(土)、8月8日(日)

主催／宮城県教育委員会・東北生活文化大学・
東北生活文化大学短期大学部

講師／松尾広(短期大学部・助教授)・池田展敏(同・講師)

毎年恒例となりつつある、みやぎ県民大学「大学開放講座」への参加であるが、今年は三島学園百周年記念棟に、20代から70代まで幅広い年齢層の方々が集まり熱心に受講した。講評会では受講者の作品(ペイントを使った絵)が発表されたが、どれも個性あふれる作品で、初心者の方にもパソコンを十分楽しんでいたことができた。



「高等教育ネットワーク・仙台」公開講座

「仙台の景観形成と彫刻」・「仙台七夕の伝統と継承」

11月6日(土)

主催／仙台市教育委員会・東北生活文化大学・
東北生活文化大学短期大学部

講師／佐藤淳一(大学・教授)・近江恵美子(同・助教授)

仙台市教育委員会と仙台圏の大学でつくる「高等教育ネットワーク・仙台」ネットワーク講座は、昨年に引き続き「講座仙台大2004」というタイトルのもと、「景観形成の過去・現在・未来Ⅱ」を共通テーマとして、学都仙台サテライトキャンパス(日専連ビープ6階会議室)を会場として開催された。本学からは佐藤教授による「仙台の景観形成と彫刻」と近江助教授による「仙台七夕の伝統と継承」と題した講座を行い、「彫刻」と「七夕」の観点から仙台の景観の特質に迫った。多数の市民の受講により、盛況に終えることができ、また受講者の多くから好評を得ることができた。



短期大学部改編 生活学専攻・子ども生活専攻新設

短大は、平成16年度より東北生活文化大学短期大学部と校名を変更し男女共学制をとり入れたが、次の改革として17年度から生活文化学科に専攻制を設けることとした。その一つは、現在のトータルライフコースとマルチデザインコースを改編して「生活学専攻」とし、その中に生活科学コース・生活情報コース・生活デザインコースの3コースを置いた。

学生は各々の将来の就職目標や興味に応じて科目を選択履修して、社会人としての教養を高めるとともに、各コースの目標とする専門知識を深め、資格取得にチャレンジできるようにした。

また、新設の「子ども生活専攻」は、厚生労働大臣認可の保育士資格の取得を目標とする専攻である。平成16年3月、仙台市を通して指定保育士養成施設に関する設置計画書を提出。その後7月には東北厚生局のヒアリングに臨み、9月28日正式な申請書を提出した。近年保育士に求められているのは“質の高い保育士”であり、その養成

施設としての認可を目指して、カリキュラムの検討、教員の確保、施設設備の整備補充などの諸問題の解決のため学園全体の協力を得て、いよいよ実地調査を残すのみとなった。正式認可は平成17年3月頃の予定であるが、今は、心身ともに健康で明るい保育士を目指し意欲的に学ぼうという姿勢のある高校生が、大勢志願してくれることを望んでやまない。

(短期大学部・生活文化学科長 須藤 佑子)



ピアノ練習室

高校全コース男女共学に

昭和25年以来54年に亘る歴史と伝統を誇った三島学園女子高等学校が、平成15年度に男女共同参画社会にふさわしく男女共学を実施し、新しい伝統と校風づくりに向け、校名を「東北生活文化大学高等学校」と改称して、早や1年半が経過した。

当初、男子を受け入れたのは、普通科美術コースと商業科二つの計3コースで94名であったが、2年目の今年は、新たに普通科の保育コースと進学コースの2コースを加えた計5コースに99名が入学した。現在男子の生徒数は190余名に及んでいる。

この間、美術コースでは、全国ファッションコンクール決勝大会出場や各種の展覧会での入賞。部活動では、男子バスケット部が創部2年目にしてベスト16に入り県選抜大会出場。バドミントン、ソフトテニス、陸上もそれぞれ県大会出場を果たしている。また、生徒会役員の8割を男子が占め、生文祭、体育祭、球技大会等の学校行事で、率先



して中心的リーダーとして活躍するその姿は、新しい生文大高の方向を示すものとして注目的になっている。

このように学校全体に活気が溢れている中、更なる発展と東北生活文化大学・同短期大学部との連携を一層強めるべく高校・大学の一貫教育を目指す学校教育改革として、平成17年度から全コース男女共学がスタートする。

(高等学校・教頭 宮崎 久)

第3回 三島学園公開講座・東北生活文化大学講演会

料理研究家

小林カツ代先生「食は美の世界」



料理研究家でエッセイストでもある小林カツ代先生をお招きして、標記の講演会を、10月15日(金)午後2:30から4:00まで開催した。第1回の作家・辺見庸氏による「旅と食の風景—私が見てきたこと」、

第2回の解剖学者・養老孟司氏による「美を考える脳」に続く、学外から見識者を招聘しての講演会で、広い視野と柔軟な思考で積極的に勉学に取り組む姿勢を養うことを目的としている。また、この公開講座は、本学と地域社会の教育的、文化的交流を育む生涯教育事業の一環でもあり、一般からの参加も新聞等で募った。会場となった三島学園百周年記念ホールは、この日の講演を聴こうと集まった一般聴講者、大学・短大生、教職員で満員となった。

TV、新聞、雑誌など多方面で活躍中の小林カツ代先生は、実生活に視点をおいた姿勢が多くの人に支持されている。「起承転結」に留意した料理作りの話から、食材そのものの美しさ、食を奪う戦争の話まで、楽しくユーモラスなカツ代流

の語りで、会場は、終始、笑い声と熱気に包まれた。感謝の念に満たされた「キャベツ」話の一節を紹介する。

「…トンカツを作って…キャベツを刻んで…。ふと見ると、残ったキャベツの軸に、根がほんの数本付いていたんです。なんだか捨てられなくなって、そのキャベツの軸を水につけていたところ、根が出てきました。しばらくすると、葉が、それは美しい淡い緑色の小さな葉が7枚も出てきたのです。でも、軸のほうは、養分を葉にあげてしまって、ほとんど無くなっていました。『命って、親って、こういうものか』と思いました。その若葉は、お味噌汁の具となって私の口に入りました…(笑)。」

懸命に生きる命が一つ一つの素材(個性)に宿っているからこそ、食の世界(自然の営み)は美しい。カツ代先生の明るい笑顔と元気潑刺とした声で「食は美の世界」を体感した講演会となった。



◎平成17年度 入試日程

【東北生活文化大学】

| 種別 | 出願期間 | 試験日 |
|---------|-------------------------|----------------|
| 推薦入試 | 平成16年11月1日(月)～11月15日(月) | 平成16年11月19日(金) |
| 一般入試A日程 | 平成17年1月12日(水)～1月27日(木) | 平成17年2月3日(木) |
| 一般入試B日程 | 平成17年2月18日(金)～2月28日(月) | 平成17年3月4日(金) |

◎資料請求・問い合わせ先:入試課(TEL.022-272-7521)

【東北生活文化大学短期大学部】

| 種別 | 出願期間 | 試験日 |
|---------|-------------------------|----------------|
| AO入試 | 平成16年10月21日(木)～11月1日(月) | 平成16年11月6日(土) |
| 推薦入試 | 平成16年11月1日(月)～11月15日(月) | 平成16年11月19日(金) |
| 一般入試A日程 | 平成17年1月12日(水)～1月27日(木) | 平成17年2月4日(金) |
| 一般入試B日程 | 平成17年2月18日(金)～2月28日(月) | 平成17年3月4日(金) |

◎資料請求・問い合わせ先:入試課(TEL.022-272-7521)

【社会人入試:大学・短大】

| 種別 | 出願期間 | 試験日 |
|------|-----------------------|---------------|
| 特別選抜 | 平成17年2月7日(月)～2月15日(火) | 平成17年2月19日(土) |

◎資料請求・問い合わせ先:入試課(TEL.022-272-7521)

【私費外国人留学生入試:大学・短大】

| 種別 | 学科 | 出願期間 | 試験日 |
|------|--|-----------------------|---------------|
| 特別選抜 | 大学:家政学科家政学専攻 生活美術学科 短大:生活文化学科生活学専攻 | 平成17年1月28日(金)～2月7日(月) | 平成17年2月28日(月) |

◎資料請求・問い合わせ先:入試課(TEL.022-272-7521)

【編入学試験】

| 学科 | 出願期間 | 試験日 |
|------------------------|-------------------------|----------------|
| 大学:家政学科家政学専攻 生活美術学科 | 平成16年11月1日(月)～11月15日(月) | 平成16年11月26日(金) |

◎資料請求・問い合わせ先:教務課(TEL.022-272-7513)

【東北生活文化大学高等学校】

| 種別 | 出願期間 | 試験日 |
|-------------------------|-----------------------|---------------|
| 特待生推薦入試 一般・美術・自己推薦入試 | 平成17年1月4日(火)～1月13日(木) | 平成17年1月18日(火) |
| 一般入試(専願を含む) | 平成17年1月7日(金)～1月21日(金) | 平成17年2月3日(木) |

◎資料請求・問い合わせ先:入試広報室(TEL.022-272-7522)

【ますみ幼稚園】

| 願書配布 | 願書受付 |
|------------------------|---------------|
| 平成16年9月1日(水)～10月31日(日) | 平成16年11月1日(月) |

◎資料請求・問い合わせ先:ますみ幼稚園(TEL.022-225-5020)

【ますみ保育園】

◎資料請求・問い合わせ先:ますみ保育園(TEL.022-227-7080)

生文大高サマーキャンプについて

8月21日(土)、22日(日)に高等学校主催の第2回中学生選抜ソフトボール大会「生文大高サマーキャンプ」が同校グラウンドに於いて開催された。県内外の中学校チームから選抜された8校が参加して行われ、2日間にわたる熱戦を繰り広げた。結果、優勝は今年初出場の鳴子町立鳴子中学校となり、準優勝は河北町立河北中学校、第3位は加美町立中新田中学校となった。

ファッション甲子園2004 第4回全国高等学校ファッションデザイン選手権決勝大会に出場!!

8月8日(日)青森県弘前市の県武道館で、青森県主催のファッション甲子園が開催された。本校は昨年からの取り組み、二度目の挑戦で初めて全国大会決勝に進むことができた。全国から596校6,334点の応募があり大変な激戦であったが、美術コース男子1期生の3名(尾崎森平・齋藤達也・鈴木琢也)は春夏秋冬をテーマに4種類の衣服をデザインし、大変好評を博した。また、作品制作にあたっては、美術コースの生徒達が協力を惜まず、家庭科教員の指導も手伝ってこのようなすばらしい結果が出せたと思う。



第5回中学生美術コンクール

学園創立100周年を記念して始められた高等学校主催による中学生美術コンクールも今回で5回目を迎えた。今年は昨年に比べ、出品数、出品校も大幅に増え、総出品数374点、出品校55校と過去最大規模のコンクールとなった。「顔」というテーマで各人各様で取組んだ発想の豊かさに溢れた作品が、数多く寄せられた。最優秀賞には岩沼市立玉川中学校3年生の伊澤東仁君の作品「幸福論～Irreplaceable Days～」が選ばれた。



玉川中学校3年生の伊澤東仁君の作品

学生・生徒の活躍

大学

- 第41回 仙台市民総合体育大会 少林寺拳法
【大学男子2段以上の部/最優秀 第1位】
渡邊祐司(家政学科3年)
【大学一般女子初段の部/優良 第3位】
佐々木彩(生活美術学科3年)・村松美香(家政学科3年)
- 平成16年度 宮城県民体育大会 少林寺拳法競技会
【大学女子級の部/最優秀 第1位】
阿部あゆみ(生活美術学科1年)・星 悠子(生活美術学科1年)
【大学女子段の部/優秀 第2位】
佐々木彩(生活美術学科3年)・村松美香(家政学科3年)
- 仙台市武道まつり 少林寺拳法
【大学男子2段以上の部/最優秀】
小野寺正芳(家政学科3年)・佐々木恵一(家政学科3年)
- 第60回 国民体育大会宮城県予選会スケート競技会
【スピード(ショート)成年男子500m/第1位】【成年男子1000m/第1位】
下山和也(家政学科4年)

高校

- ソフトボール部
【第31回仙台市高等学校女子ソフトボール選手権大会 優勝】
【第18回宮城県ソフトボール総合選手権大会高校の部 準優勝】
【第9回若あゆ杯争奪東北高校女子選抜ソフトボール大会 優勝】
【第52回宮城県高等学校新人ソフトボール大会 女子優勝】
- バレーボール部
【第25回仙台市民総合体育大会バレーボール大会 女子優勝】
【第26回仙台私立高等学校バレーボール秋季大会 第3位】
- 美術部
【第22回泉・黒川地区高等学校美術展 泉・黒川地区高等学校美術部会長賞】
宇川さゆり(美術コース3年)・同 三浦祝佳(美術コース2年)
※宇川さんは2年連続最高賞受賞
【(社)宮城県防犯協会連合会・宮城県警察主催 全国地域安全運動防犯ポスターコンクール】
最優秀賞 猪股春香(美術コース1年)・優秀賞 山崎浩(美術コース1年)
- 写真部
【第27回東北地方道路写真コンテスト デジタルカメラの部 佳作】
渡辺恵美(普通科1年)
【2004第1回東日本高校生フォトコンテスト】
グランプリ 渡辺恵美(普通科1年)・審査員賞 渡辺沙由理(総合教養コース3年)
- ダンス部
【「マンボ、DE.マンボ」ダンスコンクール 優勝】
- その他
【第6回全東北新人空手道選手権大会 防具付一般 準優勝】中村祐介(保育コース2年)
【第57回情報処理技能検定 初段合格】今村友美(商業科3年)

高校生のためのデッサンセミナー

標記のセミナーが、大学・生活美術学科主催により、本学アトリエに於いて、森敏美教授、北折整教授らにより8月2日(月)～5日(木)・8月7日(土)～8月10日(火)行われた。昨年からはまったこのセミナーは、主に高校生を対象とした実技講習会で、今回は県内外から昨年を大幅に上回る約60名の参加があった。8日間という短い期間ではあるが、受講者は1日6時間集中して指導スタッフとともにデッサンに取り組み、初心者でも十分に力をつけることが出来た。今後も多くの高校生にデッサンの勉強を通して、技術の向上と描くことの楽しさを学んでもらいたいと思う。



佐藤靖子助教授 日本調理科学会で奨励賞

大学・家政学科の佐藤助教授は、平成6年より食品組織化学の研究に着手し今年10年目を迎えた。この節目ともいえる年に「笹かまぼこに関する組織化学的研究」が日本調理科学会にて奨励賞を受賞した。本人はこれまでの研究成果が思いもよらない形で認められたことに大変驚いており、「受賞日(9月)には台風も歓迎してくれたようです。」とユーモアたっぷりに語る。更に、「学生時代は、ラットを用いてタンパク質の栄養価に関する研究をしていたが、今後は食品素材および調理変化を視覚的に捉える食品組織化学の研究を継続するとともに、結果を速やかにまとめる努力を重ねたい。」との抱負を述べた。



杉林英彦講師 美術科教育学会で奨励賞

大学・生活美術学科の杉林講師が昨年度末に、所属する美術科教育学会より奨励賞を授与された。当学会は会員が500名前後の小さな学会だが、日本における美術教育の発展に大きく貢献してきた。今回の奨励賞は、大学院(筑波大学大学院博士課程芸術学研究科)時代から主に研究してきた美術鑑賞の評価方法に関する研究が学会から評価された結果である。本人は「この賞を励みとして、今後とも研究を重ね、本学学生をはじめ、日本の美術教育に貢献していきたい。」と決意を述べている。



同窓生情報

混合技法で注目の樋口佳絵さん

大学・生活美術学科平成8年度卒業の樋口さんは、現在仙台で最も注目されている若手アーティストの一人である。木製のパネルにテンペラと油彩の混合技法による繊細な筆致で、「不思議な日常」を表現している。その作品は県内外から高い評価を得て、本年銀座のガーディアンガーデンで開催された「グラフィックアートひとつぼ展」の出品作家の一人に選出された。また11月に仙台で開催された個展では展覧会を「もすりん」と銘打ち、布の質感のイメージをテーマにした作品14点を展示し、多くの人達から好評を得た。新しい感性の表現者として今後より一層の活躍が期待できる。



「ドアは開いたのか」
・130×140cm・油彩 テンペラ・制作年2003

学園歴史探訪

顕彰館

正門を入り桜並木を上ってくると、左手に学園の創設者三島駒治・よし先生、齋藤實子^{まこと}爵の胸像が立つ小さい公園がある。その一隅の建坪159㎡総二階の建物が顕彰館である。共に学園創立100周年(西暦2000年)記念事業の一環として整備された。顕彰館は学園の創設・発展に尽力された方々を顕彰することを目的に建設されたもので、一階に小さな展示室がある。現在は三島先生ご夫妻、齋藤子爵、佐藤^{なおし}元学園長を中心に「三島学園草創之譜・三島氏と氏をめぐる人々」展を開催中である。次号以降は顕彰館等に収蔵されているゆかりの品々を随時紹介して行く予定である。



東北生活文化大学

家政学科

6月、築館女子高校からの要請により、大庭清教授が高校生に対し健康栄養学を学ぶ意義について講義を行った。7月には本学1~3年生を対象に進路に関する特別セミナーを開催し、仙台社会保険病院栄養課長の守屋淑子先生と、本学出身でドレメファッション芸術専門学校教員の菊地紗代先生の講演が行われた。土曜日にもかかわらず9割近い学生が参加した。8月にはオープンキャンパスが行われ、95名の高校生が参加した。参加者の6割は「良い」、4割は「普通」という感想であった。9月には家政学専攻2年生が研修旅行で韓国ソウルを訪れ、衣食住や現地の人たちとの交流において異文化を体験した。どの訪問先でも心温まる歓迎を受け、学生たちには大きな自信となった。10月には料理研究者、小林カツ代先生の講演があり、食材本来の味、色彩、そして生命を大切に考えた料理についてのお話があった。「料理は技術が大切」、「おいしい料理は美しい」、「料理された素材は生きている」など、心に残るお話を聞くことができた。

生活美術学科

美術鑑賞旅行、博物館実習旅行、第31回大美学内コンクール、大学祭(テーマ「ダイヤモンド」)などの諸行事が、例年通り行われた。この中で大美学内コンクールでは応募作品172点の中から2年齋藤香奈絵の熔接によるトルソ「シブ」が最優秀賞の栄誉に輝いた。また7月2日、東京芸術大学の佐藤一郎教授を講師としてお迎えし、「絵画の基本」との演題で本学科学生及び県内高校の美術教諭を対象とした講演会が開かれた。8月には今回で2回目となる「高校生のためのデッサンセミナー」が、本学科主催のもと、高大連携に関連する行事の一環として実施された。在学生は現在、年度末に向かい、来季を見すえあるいは本年度をしめくくべく勉学に取り組む姿勢が明瞭になりつつある。教員学生とも研究、制作活動は枚挙にいとまがないが、特筆すべきは杉林英彦講師が美術科教育学会において奨励賞を受賞したことである。同講師は昨年度赴任したばかりであるが、美術教育理論のエキスパートとして着実にその地歩を固め、本学科に必要な人材となっている。

東北生活文化大学短期大学部

短期大学部は来年度から「生活学専攻」・「子ども生活専攻」の二専攻制を取り入れ、更なる改革を目指して充実したカリキュラム編成や施設設備の充実を図っている。申請中の保育士養成課程の準備に伴い、80周年記念棟と旧体育館の改修を行い、音楽棟とリズム室を設置した。さらに、全国大学実務教育協会「ビジネス実務士」の申請を行い、9月の認定審査会で承認されたことにより、すでに取得可能となっている「情報処理士」とともに来年度から新たな称号が取得できる予定である。

また、夏季休業期間を利用し、短大棟1Fトイレ改修と2F資料室燻蒸を行った。今年度から共学となり男子学生を迎え入れたが、今後の男子学生増加に対応すべく諸設備の増設、整備を行った。資料室には清水小路以来の様々な貴重な資料が保管してあったが、虫食いが激しくなったため燻蒸作業を行い、一部学内展示に回した。短期大学部はこのように伝統文化を守りつつ、新たな改革に向けて邁進している。

人事異動

秋元 高子 【退職】短大・副手
平成16年10月31日

訃報

田中 久子 【元短大副学長(1973.4.1~1977.9.30)】
平成16年8月6日逝去

本学園発展のためにご尽力くださった方へ心からお悔み申し上げます。

東北生活文化大学高等学校

校名改称と同時に男女共学を実施して2年目。在籍数705名でスタートした平成16年度も早や半年が経過した。

さて、平成16年度前半の高等学校の主な行事と活動状況について振り返ってみる。3月には生徒会が、永年のボランティアと福祉活動等が認められ宮城県知事より「感謝のこぼれ」の盾が贈呈された。また、ソフトテニス部の活躍(インターハイ団体2回、個人戦10回以上出場)が認められ、宮城県ソフトテニス連盟より優良団体賞を受賞した。第53回宮城県高校総体では、各部健闘はしたが、上位入賞には至らなかった。それ以外の活躍として、女子ソフトボール部は、県高校選抜大会、県私立高校大会で優勝。県高校新人大会では見事初優勝を果たし、晴れて来春の全国大会出場が決定した。誕生してまもない男子バスケットボール部は県高校選抜大会に出場、大活躍をし、今後の活躍が期待される。女子バレーボール部は東北私学大会に出場。文化部では、美術・デッサン部が第11回全国高校デザインコンクール大会入賞。泉・黒川地区美術展では昨年を上回る27点の入選入賞。写真部はプロの写真家が出品するコンテストでの入賞。個人では男子が全東北新人空手道大会準優勝。食物検定1級、情報処理技能検定試験初段等の合格。第2回目となった生文祭では、屋台模擬店、ステージ発表、各部の作品や研究発表。虹の丘町内会、PTAの展示など盛りだくさんの企画があり大変好評であった。第5回を迎えた中学生美術コンクールは昨年を上回る55校370点余の作品が寄せられた。このように文武両面での活躍ぶりが特に目立った。最後に、学校教育改革が進行中の高校としては、現在「内容の充実」をはかっている。私学としての「特色ある学校づくり」「開かれた学校」という観点に立ち、教職員による内部評価(2回目)にとどまらず、生徒、保護者からの評価をアンケート方式で実施し、逐次公表するとともに改善点について現在検討を重ねている最中である。

ますみ幼稚園

体験保育の一環として天文台や動物見学会を実施している。園児達は、天文台見学ではプラネタリウムを見ながら不思議な星空の世界に浸り、また、動物園見学では担任の先生の説明を聞きながら、動物たちに親しみを込めて話しかけていた。園庭では、乗り物遊びが盛んである。約40台の自転車・三輪車に乗り、元気にたくましく遊んでいる。「一度乗ったら次の友だちと交替すること」他人への思いやりの心を育てるために、遊びを通して簡単なルールを守らせている。また、草花摘みや木の実拾い、虫採りが大好きで、特にだんご虫やバッタ、トンボをペットボトル等で作った虫籠に集めて、遊んでいる。時には、ギンヤンマが玄関から勢いよく廊下に入り込み大騒ぎになることもある。先日、園児募集活動と地域子育て支援推進事業の一環として、「親子コンサート」と「親子運動遊び」を企画したところ大好評であった。プロの演奏者に合わせて中南米風の曲を歌ったりリズム打ち遊びをしたり体育教室の先生と一緒に体を動かしたので、在園児は勿論、集まった未就園児たちも満足な表情であった。

ますみ保育園

早いもので保育園が開園して8ヶ月。春、夏、秋と季節を過ごし、子供たちはたくましい成長を見ている。3、4、5歳児の子供たちは雨上がりの園庭での裸足遊びが大好き。畑で作ったトマトがカラスに食べられて、カラス退治の作戦を立てたりもした。1、2歳児の小さい子供たちは歩くことが大好きで、園外保育で動物園に行った時も、広い園内をしっかりと歩いて、保育士をビックリさせている。0歳児の赤ちゃん組はいたずら盛り。6人そろってフルパワーで探索が始まると、二人の担任もてんこまいた。これから迎える冬。楽しい雪遊びにわくわくするが、インフルエンザは流行しないか、大雪が降ったら送迎は大丈夫だろうかと心配でもある。子供たちが安心して過ごせる生活の場として、保護者が安心して子供を預けられる保育園として、力を尽くしていきたいと思っている。

理事会の 主なる 議題

- 平成16年10月16日(土)10:00(百周年記念棟2階会議室)
- 大学、短大の専攻科設置に伴う学則変更等について
- 高校、幼稚園の収容定員変更認可申請に係る学則、園則の変更等について
- 学校教育法の改正に伴う認証評価機関への加入について
- 退職金支給細則変更について
- 私立学校法一部改正に伴う寄附行為の変更について

誌上 ギャラリー



「時代衣装からヒントを得た卒業式衣装」

大学・家政学科 樋渡 亜由美
平成15年度卒業

19世紀の服飾史に現れるバスルススタイルドレスに興味を持っていた。4年生で履修した被服構成実習Ⅳの自由製作で、これまでに習得した技術と知識を活かし製作することを試みた。デザインはNY:メトロポリタン美術館所蔵のドレス写真よりヒントを得て、写真ではわからない背面などは私自身でアレンジして設計した。卒業式という場面にふさわしい正装ができたと思う。

(本人談)

編集後記

第3号が無事発行できたこと、また学園報創刊号からちょうど1年を迎え、年2回の発行ペースも徐々に軌道に乗り出したことで少し安堵の思いである。社会情勢はめまぐるしく変化しているが、その波に遅れることなく着実に学園の改革が進みつつあることが本誌の中でも報告・紹介されている。学園の「今」を知る広報誌として、更なる紙面の充実を目指していきたいと考えている。

(三島学園広報委員会)

学校法人 三島学園 学園報 第3号 平成16年12月1日発行 三島学園広報委員会編集

III 学校法人 三島学園 〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1-18 TEL.022-272-7511(代) FAX.022-272-7516
[URL] <http://www.mishima.ac.jp> [E-mail] hojin@mishima.ac.jp